

ご本人も家族もラクになる 認知症の症状の「対応のポイント」

認知症の方の目に映る世界と、認知症でない介護者が見ている世界には少しのズレがあるものです。認知症の方々の心理や考え方、見えている世界を想像しながら接することが、ご本人の安心につながり、結果的にお互いの負担を軽くすることにもつながります。

症状 どこにいるのかがわからない



ご本人のなかでは自分がはっきりとわかる時間や、輝いていた場所・時間に戻っていることがあります。

対応のポイント

- まずは安心してもらうために笑顔で話を聞く。
- ご本人の様子をよく見て、相手がどのような場所・時間にいるかを想像する。
- 認知症の世界と非認知症の世界のギャップが少なくなるように接する。

症状 この人、誰かしら?



ご本人のなかでは顔の認識が苦手になると、声や服装など全体の雰囲気で判別するようになります。

対応のポイント

- 誤りを正そうとするとさらなる混乱につながるので、無理に訂正是せず、一時的に話を合わせるとよい。(あくまで安心させることが目的。思い込みを定着させないよう注意)
- スキンシップを取りながら話すと安心してもらいやすくなる。

症状 あなたが盗んだの?



ご本人のなかでは大切に管理したはずのものがなくなってしまったため、盗まれたと思い、不安と焦りを感じています。

対応のポイント

- 盗みを疑われてもご本人が不安な気持ちでいることを忘れないようにする。
- 見つからない時は話をしながら一緒に探すなどして心に余裕を持って対応する。
- 大切なものはどの思ひぬ場所から出てくることがある。

症状 相手の話が理解できない



ご本人のなかでは会話が早送り(2倍速以上)で聞こえています。

対応のポイント

- 言葉の句点や読点を意識して区切り、ゆっくり落ち着いて話すようにする。
- 2~3語ほどの簡単な言葉で伝わるように話す。
- 不安を助長しないように、優しく豊かな表情で話すことを心がける。

症状 言葉が出にくい



ご本人のなかでは思うように意志が伝えられず、もどかしい気持ちを抱き、自信を失っています。

対応のポイント

- 相手に「聞いてもらっている」という安心感を持ってもらうため、しっかりと相槌を打ち、オウム返しをしたり、相手の気持ちを言語化したりして、話を聞く姿勢をとる。
- 相手の身振りや表情を見ると、何を言っているかわかるときがある。

症状 体をうまく動かせない



ご本人のなかではまならない体をどうにか動かそうとがんばっています。

対応のポイント

- 全力で動かそうとしていることに感謝の気持ちを持つ。
- 調子がいい時は心身の衰えを防ぐためにも散歩など一緒に外出する機会を増やす。その際「イチ、二、イチ、二」と声掛けしながら足を前に出すとご本人は歩きやすい。